



太田川駅東歩道「ランの道」の取り組み ～「ランのまち東海市」を未来へ引き継ぐ活動～

■ランの道の整備

太田川駅東歩道「ランの道」は、地元有志で組織する「大田まちづくりの会」が、まちの活性化に繋げるため、平成29年度（2017年度）から、ラン専門家の市橋正一 愛知教育大学名誉教授の指導を受けながら、行政と一緒に整備を進めてきました。

市橋名誉教授が独自に品種改良した「シラン」を始め12種類、約6,000株のランを延長約600m楽しめるのは、全国的に見ても類のないものです。

■未来へ

「大田まちづくりの会」は、土地区画整理事業によって新しい街に生まれ変わる中で、地元の特産であるランの栽培農家も減少しつつあることから、若い人たちにランの栽培の歴史を知ってもらい、「ランのまち東海市」に愛着と誇りを持ち、未来へ引き継いでいってほしいという願いを込め、植え付けや株分け、水やりなどの手入れを行いながら、「ランの道」が観光名所となるよう、日々活動に取り組んでいます。

■令和5年度（2023年度）の取り組み

より多くの方に「ランのまち東海市」を知ってもらえるよう、ランの開花時期に合わせて案内看板の設置やパンフレットを配布する他、5月20日に市民参加による植栽会及び「ラン」の開花を楽しむイベントを開催します。

【開花時期】

4月中旬から5月下旬（シランの見頃は、5月上旬～中旬）

【植栽会】

- ・5月20日（土）13時～15時、500株程度植栽
- ・50人程度募集、5月1日から事前申込

【その他】

- ・10時～15時は、スタンプラリー（当日受付）を実施予定
- ・「パン&スイーツマルシェ太田川」と同時開催
- ・SNSによる情報発信やPR用の写真募集は、4月中旬から5月末まで実施予定
- ・植栽会とスタンプラリー参加者には、ランの苗をプレゼント（先着各50名予定）

■添付資料

「ランのまち東海市」の歴史、見どころガイド

問合せ	都市建設部花と緑の推進課 担当：戸澤（とざわ）、加藤（かとう） 052-603-2211、0562-33-1111（内線435）
-----	--

「ランのまち東海市」の歴史

東海市の大田地区は、古くから花卉栽培が盛んで、江戸時代中期から牡丹の栽培が始まり、大正時代から昭和初期までは県外からも観光客が訪れる「大田の牡丹園」として大変にぎわっていましたが、戦時中は、農地作付統制令により花卉栽培ができなくなり、ガラス温室は爆撃の目標とならないように取り壊され、ガラスは軍需用として、牡丹は薬用として売却され、花卉栽培は途絶えてしまいました。

戦後は、進駐軍への需要をきっかけに、花卉栽培の技術を生かして全国に先駆けて洋ランの栽培を導入し、名古屋臨海工業地帯造成に伴う漁業からの転業者も加わり、昭和40年代（1960年代）の高度経済成長期の洋ランの需要拡大と合せて、大量生産技術の開発もあったことから、全国有数の産地「ランのまち東海市」に発展してきました。

「大田まちづくりの会」は、このような地元の特産にまつわる歴史を、若い人たちにも知ってもらい、「ランのまち東海市」に愛着と誇りを持ち、未来へ引き継いでいってほしいという願いを込めて、「ランの道」の育成に取り組んでいます。

■昨年度の「ランの道」開花状況



シラン

■地元有志「大田まちづくりの会」の活動の様子



■過去の市民植栽会の様子



セッコク（着生ラン）



ガーデンシンビジウム（地植えラン）





ランのまち、東海市。



太田川駅東歩道

ランの道

見どころガイド

名鉄太田川駅から東へ延びる歩道約600mには、シランやセッコク系デンドロビウム、フウランなど、12種類のランが約6,000株植栽されています。

なかでもシランは、愛知教育大学名誉教授の市橋先生が品種改良された、個性あるオリジナルの16品種をはじめ、珍しい色の野生種等、他ではなかなか見ることができない貴重な花を楽しむことができます。

ランの道 監修

愛知教育大学名誉教授
市橋 正一 氏



Supervisor

＜研究分野＞
花き園芸学、ランの生物学

＜研究課題＞
ラン科植物の無菌増殖法に関する研究
野生ラン科植物の種子繁殖法に関する研究
難発芽性ラン科植物の種子発芽法の開発
ファレノプシスの好適栽培条件の解明
ファレノプシスの栽培管理法の改善普及

＜所属学会(元)＞
園芸学会
日本植物細胞分子生物学会
農業教育学会

愛知教育大学の教授として、花き園芸学、ランの生物学等の分野の研究に携わってこられ、東海市の生産者とも長年にわたり関わりのあったご縁から、太田川駅東歩道「ランの道」の監修をしていただいています。

管理ボランティア

大田まちづくりの会
蘭の道グループのみなさん



水やり、雑草取りなど、日常管理の中心を担ってくださっています。訪れる人たちに楽しく散策してほしい、そして、「ランのまち」東海市を次世代へ引き継いでいきたいという思いをもって、日々ランの道づくりに尽力されています。



＜始まりは牡丹栽培から＞

本市の花き園芸の歴史を辿ると、始まりは江戸時代の中期、現在の大田町で牡丹栽培が行われていたことがきっかけと言われています。

大正時代には村の特産となり、花を見に訪れる人々のため、当時の太田川駅南に臨時の停留所がつけられるほど盛んであった牡丹栽培ですが、昭和17年(1942年)頃には、戦時中の作付制限等の理由から、姿を消してしまいました。



＜観葉植物時代の到来＞

知多半島で観葉植物の栽培が始まったのは、昭和28年(1953年)からと言われていますが、販路が開拓されるにつれ、本市でも盛んに生産されるようになりました。アナナス、観音竹、ヤシ等、様々な観葉植物が栽培されましたが、なかでもアナナスはブームが起こり、栽培されているところへ観光バスが訪れることもありました。



＜洋ランの栽培が増え始める＞

昭和35年(1960年)頃、観葉植物時代の到来とともに、洋ランの栽培も始まりました。昭和40年(1965年)代中旬にメリクロン苗(培養技術により増やした苗)が普及すると、大量生産が可能になったことで、生産者も増え、洋ランは本市の特産品になっていきました。



＜未来に繋げていくために＞

「ランの道」づくりは平成29年度(2017年度)から始まりました。太田川駅周辺の区画整理事業に伴い、「大田まちづくりの会」の皆さんから、まちの活性化のため、市の特産であるランを植栽してはどうかと提案をいただいたことがきっかけです。



東海市の新しい観光名所になることを目指して、市民参加による植栽会や、大田まちづくりの会「蘭の道グループ」の皆さんを中心とした日常管理など、多くの人の協力のもと、ランの道づくりは現在も続けられています。



【シラン(紫蘭)】
開花期:5月頃

市橋正一氏 シラン(紫蘭)コレクション



えりか

咲き始めの花弁は黄色を帯び、後白色に。リップは丸形。



りすみ

繊細な感じですが、実際に繊細です。

市橋先生が品種改良したシランには、研究に協力してくれた学生さん等の名前が付けられています。



あやの

淡い色調。サクラのよう可愛い。リップは四川黄花草小白笠ゆずり。



ゆり

強健で、地植えすると大きく育ちます。シラン(紅)が父親。



きょうこ

強健で地植えすると大きく育ちます。シラン(白花)が母親。



しおり

強健で地植えすると大きく育ちます。シラン(紅)が母親。



ひろこ

シラン(紅)が母親。花が大きい品種です。



たえみ

シラン(紅)が母親。リップは母親に似る。



えりな

シラン(紅)が母親。リップは父親に似る。



まこ

強健で大きく育ちます。シラン(紅)が父親、リップの黄色は母親由来。



みきこ

強健で大きく育ちます。シラン(紅)が父親、リップの黄色は母親由来。



さとこ

シラン(紅)が母親。花弁のピンクが特徴。



りょうこ

強健で立体的な感じの花。シラン(紅)が母親。



ゆうこ

シラン(白)が母親。強健。端正に整った形で平面的な感じの花。



さくら

リップが餅やかであるが傷みやすい。サクラを連想させる花。



さえ

白弁で長めのリップは、四川黄花草小白笠ゆずり。



四川小白笠

野生種



四川黄花草小白笠

野生種



雲南小白笠

野生種



シラン ブルー

流通種



① シラン(5月頃)



② セツコク系(5月~6月頃)



③ フウラン(6月頃)



④ ガーデンシンビジウム(4月~5月頃)



⑤ ネジバナ(6月頃)



⑥ キンリョウヘン(4月~6月頃)



⑦ オンシジウム(5月頃)



⑧ ミニカレア(4月~5月頃)



⑨ サギソウ(7月~8月頃)



⑩ シュンラン(4月頃)



⑪ エビネ(4月~5月頃)



⑫ キエビネ(4月頃)

